

令和5年度 第3回社会教育委員会議事録

【日時】 令和5年（2023年）12月25日（月）13：58～16：05

【場所】 生涯学習センター5階 第1学習室

【出席委員】

議長	梨本 加菜	副議長	櫻井 聡
委員	臼井 護	委員	浦野 千鶴
委員	小林 純子	委員	武石 太一郎
委員	濱田 恵里	委員	八矢 信宏
委員	林 但	委員	蛭田 道春
委員	松本 敬之介	委員	山岸 雅人
委員	渡辺 孝夫		

【欠席委員】

委員	加藤 春樹	委員	志村 直愛
----	-------	----	-------

【事務局出席者】

教育総務部長	古谷 久乃	生涯学習課長	柿原 美奈
同課係長	島内 さおり	同課主任	遠藤 雅弘
同課アシスタント	杉山 一美		

1. 開会

議長が会議の開催を宣言し、会議を開始した。

定足数について

委員15名のうち12名が出席し、出席者がその半数を超えるため、社会教育委員会議事規則第4条第1項の規定に基づき、事務局が会議成立を報告した。

その他

傍聴人の確認（傍聴者0名）、配布資料の確認を行った。

3名の委員の方が表彰されたため報告を行った。おひとり一言ずつご挨拶をいただいた。

2. 議事 市民大学について（提言書案について）

事務局から説明を行った。

（1）タイトル案について

- 議 長 お一人ずつご発言をお願いしたい。
- 委 員 「多様な人々が参加する市民大学」
- 委 員 「市民の学びにこたえるために」
- 委 員 「市民がいつでも気軽に学べる市民大学」
- 委 員 「市民大学—未来志向の学びへ」
- 委 員 「市民大学—自律に向けた学びへ」
- 委 員 タイトルの中に「横須賀市民」という言葉を記載したほうがよい。
- 委 員 「ひとつづくりはまちづくり」
- 委 員 「学ぶ喜び・市民大学で体験してみませんか」
- 委 員 「学びの入口・まずは市民大学」
- 委 員 「あなたの学び支援します—市民大学」
- 委 員 「あなた、市民大学で学んでみませんか」
- 委 員 「いつでも学べる新市民大学へ」
- 委 員 「多様な人々が参加する市民大学」多様な人々については一考の余地あり。
- 委 員 「横須賀市市民大学が市民の学びに応えるために一次の学びにつなげる願い」
- 副 議 長 「まなぶ・くらし・たのしむ横須賀市民大学」
- 委 員 提言書なので、「みませんか」という言葉は違和感がある。
- 委 員 副議長のタイトル案にサブタイトルで「市民の多様な学びに答えるために」を足せば、よいのではないか。
- 議 長 タイトルの中に「横須賀市」という言葉が入っているとよい。
- 副 議 長 「学ぶ暮らし」と「暮らし楽しむ」というワードをくっつけたかったのでこのタイトル案を考えた。
- 委 員 「多様な」という言葉が入ってもよいと思う。
- 委 員 「未来への学び」と「未来志向」は違うと思う。
- 議 長 英訳もできるといい。タイトルは「まなび・くらし・たのしむ横須賀市市民大学—未来への学びに応えるために」でよろしいか。
- 事 務 局 事務局で文字に起こしてみても、タイトルについて、改めて検討させていただきたい。

（2）「はじめに」について

- 議 長 ご意見はあるか。
- 委 員 2ページの6行目の「受講者の中心年代層」について、男性は60、70、80歳代が中心であ

り、男女で傾向が異なる。可能であれば中心年代層の傾向については「男性参加者に顕著に見られる」と記載していただきたい。

議長 男女別の統計は出ているのか。

事務局 前々回の会議の際に配布した資料に男女別の統計があるので、記載は可能である。

委員 7ページに事実として表記したほうが分かりやすいと思う。

事務局 男女別の統計は取っている。顕著と言える優位な差が数字に出ているか等を確認してから記載について、改めて検討させていただきたい。

(3) 「1 市民大学とは」について

議長 ご意見はあるか。

委員 3ページに「市民大学では社会人向けの講座も開設されている」ということを追加で記載したほうがよい。(※社会人の方も受講しやすいように土日や夜間、オンライン開催などを行っている。)

議長 追加で記載とする。3ページにあるようなコラムについては通し番号をつけたほうがよい。見出しの工夫をしてもよいと思った。

委員 8ページ3行目「市民の割合は100%」という書き方ではなく、「決して高くはなく」や「多くはなく」など、書き方を工夫したほうがよいのではないか。

議長 根拠に欠けるところがあると思われるので、書き方を改めることとしたい。

(4) 「2 市民大学の現状と課題」について

議長 ご意見はあるか。

委員 よく書けている。討議した結果を踏まえながら書いていて落ちはない。市民大学を活用している方々が、来ている理由や受講するメリットなど、具体的な例が記載されると柔らかくなるのではないか。市民大学に継続して何年も来ている方々の例や、アウトプットの具体例なども少し書いたほうがよい。初めて読んだ人にも分かりやすくしたほうがよい。1行か2行文章をいれるか、「※」を入れるとよい。社会教育委員や行政の方だけではなく、市民大学を知らない人達にも読んでもらいたい。

委員 提言書を一般市民も見ることができるのか。

事務局 生涯学習課のホームページで見ることができる。また、市役所庁内や神奈川県内の市町村にデータで送付する。

議長 広い層に見ていただくために工夫が必要である。

委員 「市民大学」という名前が年齢層の高い方が参加されるという考えに繋がってしまうと思う。また、敷居を高く感じてしまう方もいると思うので、名前自体をもう少し柔らかく変更したら、入口が広がるのではないかと思う。

委員 知り合いに市民大学について聞いてみたが、20代30代はほとんど知らない。50代は知っているが、行かなかったと言っていた。大学という名前が敷居を高く感じさせるので、簡

- 易的に横須賀講座など、横須賀という名前が入るとよい。名前は大事だと感じた。
- 委員 気持ち的には分かるが、2ページ「市民大学開設の経緯」に書いてあるが、「市民から、より高度な内容のものをという要望が上がり、それに応える形」で市民大学ができた経緯があるので、ここで市民大学という言葉が消すということには賛成できない。
- 委員 対象を広げたい、若年層にも参加してもらいたいということであれば、市民大学という名前は大多数の方にとっては敷居が高い。小学生から高齢者まで誰でも興味を持てる別の場を設けるか、開かれた場という形にするのではあれば別の名前がいいと思った。
- 委員 市民大学の位置づけの確認が必要である。県民カレッジや生涯学習大学院大学という名前で行っているところもある。誰でもいつでも参加できる講座としてコミュニティセンターの講座があり、そこから発展し、継続性のあるものが市民大学である。ハイレベルな講座を受講できる機会として市民大学という名称をつけた経緯が前段にある。色々な名称はあるが、市民大学という言葉はある程度知られていると思う。市民大学というネーミングは以前からのものであるため、名称を入れておかないと訳が分からなくなってしまうと思う。
- 委員 確認だが、市民大学はひとくくりで色々な人が気軽に誰でもいつでもどうぞという形で開かれた形を考えていたのか。横須賀市の生涯学習の体系化された中で市民大学は何であるのかが明らかにされないとピントがぼけたままの提言になってしまうと思う。
- 議長 他の自治体では「アカデミー」「鎌倉アカデミア」などがある。最後にタイトル案で話そうと思っていたのだが、横須賀市の市民大学ということで「横須賀」という名前をしっかりと入れていただきたいと思っている。3ページのコラムに書いてある市民大学の講座とコミュニティセンターの講座の違いが答えになるか分からないが、段階的には市民大学がコミュニティセンターの講座の先にあるということである。もう少し役割の整理が必要である。また、英語の「ジュニアカレッジ」という単語の意味は「短期大学」という意味なので、10代の子どものための講座の名前として使っていることはおかしく、言葉の混乱があると思う。「市民大学」という名前そのものについて将来的に名前を変えたほうがよいということも今後出てくるかもしれないが、まずは横須賀市の市民大学ということでお考えいただきたい。
- 委員 市民大学という名前はよいと思う。タイトルに「楽しく学べる」「心が豊かになる」というニュアンスの言葉が入ったほうが幅広く浸透しやすく、柔らかい表現になると思う。
- 副議長 市民大学の名前の変更は難しいことが分かった。検討している中で最初から学びたいであろうという考えが大前提にあることに違和感を感じている。市民大学の役割を考えた時に学びたいという気持ちを元々持っている人に対してのアプローチがとても多いと思っていて、学びたいという気持ちはあっても市民大学という言葉がハードルを高く感じさせたり、取りこぼしをしている、アプローチができていない年齢層があると思った。学ぶ楽しさや暮らしに沿った学びの提案があるとよいと思っている。ハードルの高さをなるべく低くして暮らしに沿ったようなタイトルにしたいと思い、タイトルを考えてきた。「まなぶ・くらし・たのしむ・市民大学」のようにハードルが下がって、学びたいという気持ちを起こさせるような考え方をしていくのがよいのではないかと思った。
- 委員 講座を体系化していく中でそのハードルを下げっていくようなやり方もあるのではないか。

体系化していくと色々なニーズに答えられるような講座ができていき、参加しやすくなっていくのではないかと思った。

委員 横須賀市の教育を考えた時に、小中高大学の先に繋がって市民大学があるのではなく、横須賀市の生涯学習財団が市民大学という講座を企画・運営してやっているという考え方である。

議長 高校や大学を出ていなくても受講できるのが市民大学である。今、大学教育では科目を学年別や分野別等にナンバリングする体系化が求められている。市民大学の講座も初心者向けの講座や専門的な講座などジャンル分けされているとよいかもしいない。

委員 市民大学の体系化について追加で記載することで位置づけが分かり、誤解が少しでも解けるのではないかと思う。5ページの「分野別の講座例」にあるように、現在行われている講座を分かりやすく記載すれば、理解してもらえるのではないか。学ぶ楽しさという一つの例を挙げたり、取っ付き易いものを例に挙げることはとても大事だと思うので、記載方法を工夫したほうがよい。

議長 5ページの「分野別の講座例」について、抜粋の講座名だけではなくて、体系そのものを示した資料がある方が分かりやすいと思った。抜粋ではなく、分野全てを示したり、枠のようなものがあるとわかりやすくなると思ったので、ここはもう少し細かい資料として充実させてもよいと思った。

委員 どのターゲットを狙っていくかを積み重ねてきている。市民大学は横須賀市の行政計画の体系の中に入っている。内容の系統性、市民大学の位置づけなど、こういう性格や特色があるということを書くとよい。それらの記載がないと、今回のような質問ができてしまうと思う。コミュニティセンターと生涯学習センターの違いをベースにしながら生涯学習財団としてどうなのか、横須賀市の直営であった精神を受けた形で、生涯学習財団が内容の系統性や教養の狙いどころ、位置づけ等を受け継いでいるということに記載した方がよい。

議長 19ページの用語解説以外に、全体像を資料4で丁寧に表していくとよいと思う。7ページに男女別のデータをいれると、より詳しいデータが載ると思う。4ページの講座分野①②③について、②が横須賀市の特徴的な内容を扱っている分野なので、より具体的な詳しい説明が欲しいところである。また、5ページの「分野別の講座例」にも数字①②③を記載し数字で対応できるようにしておいたほうが分かりやすくなると思う。

委員 先ほど意見に挙げた、8ページ3行目の「市民の割合は100%ではなく」は「決して高くはなく」という言葉に修正したほうがよいと思う。

(5)「3市民に広く認知され、参加しやすい市民大学へ」について

議長 ご意見はあるか。

委員 11ページの2行目に『関係機関、部局が連携して、定年後の社会参加を進める「生涯現役」の取り組みを引き続き行う』を追加で記載したほうがよい。関係機関も連携している事業であるため、記載したほうがよいと思った。

- 議長 実際に行っていることなので記載する。9ページ13行目にある「以下の4点」がすぐに見えてこないの、4点並べてミニ見出しのような表記をいれたほうが読みやすくなると思う。小委員会の委員への質問だが、9ページ12行目「新たな層」という書き方は思わせぶりな気がする。特定の年代か、ターゲット層は絞り込めているのか、市民大学に来ていない方にアウトリーチをするという形で新たな層としているのか、具体性がどのようなところを考えているのか伺いたい。
- 委員 まだ市民大学に足を運んだことがない方、市民大学を知らない方という漠然とした広い層をイメージで捉えている。また、データで出ているメインの受講者年齢である70代の手前の50・60代の方に70代を迎えた時に市民大学に来てもらえるようにの2点を「新たな層」と考えている。
- 委員 9ページの「新たな層」という言葉を使うのであれば、そのままでは意味が分かりにくいかもしれないので注釈を付けたほうがよい。
- 委員 新しいアイデアをいれてもよいか。今まで受講してない人にとっては、市民大学は新たな学び、今まで学んだことのない内容という見方もできるのではないか。先日アメリカ軍基地の中の1号ドック、横須賀製鉄所の跡地を見学する機会があったが、あまり知られていないと思う。50代60代70代でも今まであったが、今まであまり触れられていなかった、知らなかった横須賀の魅力もあると思うので、新たな学びの再発見、横須賀の再発見などのような新しい学びの内容の記述があったら深くなるのではないかと思った。
- 委員 なるほどと思った。自分たちは市民大学をより多くの人に知って欲しい、市民大学の側がどういう人達にアプローチするかという目線が主になった議論が展開されていたと思う。それ以外に市民大学の側がどういう講座を工夫して企画していくかという目線もあり、両方の視点が欠かせないと思ったが、講座の内容の工夫という点では社会教育委員が提案するような講座はもう市民大学でやっている。トライアルを欠かさずやっていることを明らかにしていくこともよい。より魅力ある講座など、別のアングルからの捉え方、考え方も大事だと思った。
- 議長 13ページ「(3) 学びへのニーズを捉える」に「ビートルズの講座」などがあるが、(3)(4)に内容的な面にも触れるところがあってもよい。新たな学びとして注目を集めるような大きなキーワードがあるとよい。「(3) 学びへのニーズを捉える」は難しいところである。良い講座でも蓋を開けてみると受講者が少なかったなどもあると思う。横須賀の郷土や課題対応などの内容面についての研究が13ページにあってもよいと思った。
- 委員 13ページに大河ドラマに関連した鎌倉殿の13人や周年記念など時代にタイムリーな企画を美術館、図書館、博物館等、他の施設と連携して行い、成功した成功例を加え、連携した取り組みにより相乗的な重層的な効果が期待できたという書き方をして、項目を1つ増やしてもよいと思った。
- 議長 「他の施設との連携」として項目を1つ増やしてもよいと思った。
- 委員 事例として、三浦市へ実際に調査に行っていて講演内容がよい、健康増進に役立つなど、メリットをあげておくと生涯学習センターの見方が良くなるのではないかと思う。「ABCプラン」という言葉だけでは通じないので、学習相談も含めながら具体的に記載したほう

がいい。提言書だけでは無理だと思うが、提言書を読んだ人が参加のきっかけになるように事例を記載したほうがよい。

- 委員 9ページの「新たな層」について「市民大学自体を知らない新たな層」と書いてある。この文言に代わる文言は見つからないので、「新たな層」のままよいと思う。
- 議長 「新たな層」は残して、説明を加えていく。委員からご意見にあった「新たな学習内容」「新たな学び」をキーワードとして書き加えてもよいと思った。ABCプランは用語解説に記載するよりも項目を立てて書いたほうがよいか。
- 委員 ネーミングで独り歩きしているようであれば、わかりやすくしたほうがよい。
- 委員 資料3の用語解説に載せたらよいのではないか。
- 議長 用語解説だけでなく、横須賀市の独自のものなので、項目を加えたほうがよいと思う。
- 事務局 用語解説かコラムか、記載方法はこれから考えさせていただきたい。
- 議長 郷土の内容（「京急線と駅の歴史」「すごいぞ横須賀の海！」等）については、4ページに市民大学ならではのまなびの特徴として具体例を挙げるか、13ページに項目として加えてもよいと思った。
- 委員 14ページ6行目からの章だけ異質な感じがする文章である。「Yokosuka まなび情報やABCプランなどとの連携、位置づけをもう一度考えてみてもよいのではないか」という書き方がよいと思った。この章だけネガティブな印象を受けた。
- 議長 確かに挑戦的な内容に感じるので文章を検討する。

(6)「おわりに」について

- 議長 ご意見はあるか。
- 委員 「おわりに」を読んで嬉しくて泣いた。指定管理者を褒めてあげたいので、「おわりに」の5行目に「指定管理者の努力もあって」という文章があるとよいのではないかと思った。
- 委員 大賛成である。生涯学習財団の方々はチャレンジングに色々な講座を一生懸命行っている所以、そのことを記載しつつ、市民大学をさらによくするための提言書であるとまとめるとよい。
- 委員 数字やローマ字の半角や全角が合っていないところが気になるので、合わせたほうがよい。
- 事務局 市役所の公文書規定に従って記載する。
- 委員 16ページ最後の「引き続き本市の社会教育行政の充実に努力願いたい」は上から過ぎて高飛車に感じる。「期待する」や「望む」などの書きの方がよいのではないか。
- 委員 本を読むときに自分は「はじめに」と「おわりに」を先に読んでから本編を読む。提言書は全体が同じ調子で流れているように見えるので、「おわりに」の中で協調したい部分は、フォントをゴシックにしたり、二重枠をつけたり、文字サイズを大文字にするなどすれば、もう少し訴える力がでてくるのではないかと思った。
- 議長 15ページは行間に隙間を入れたほうが読みやすくなると思う。「新たな層の確保」が大きなキーワードになっているが、「新たな学び」も書き加えてほしい。「郷土の内容」についてせつかく協調されるのであれば、「おわりに」に書いてもよいのではないかと思った。提

言書の内容を見ていくことで全体的なポイントの流れが見えてきたと思う。用語解説については事務局にお任せする。

- 委員 生涯学習財団の活動を評価するという意味では「限られた様々な制約の中で」「多くの制約の中で」という文言があると実情がよく分かるのでよいと思う。
- 議長 民間のカルチャーセンターと違って、必要課題を盛り込んでいくことが必要である。制約がある中で努力をされている、運用されているということを書いたほうがよい。
- 事務局 第4回社会教育委員会会議の前に提言書（案）を送付させていただくので、ご確認をお願いしたい。

3. その他連絡事項

- 議長 神奈川県社会教育委員連絡協議会の会誌の執筆は誰が担当するか。
- 委員 副議長が新しく横須賀市の理事になられたので、副議長に執筆をお願いできないか。
- ※了承いただく

事務局から事務連絡を行った。

最後に、議長が閉会を宣言し、会議は終了した。

(閉会)

以上のとおり相違ありません。

議事録署名年月日 令和 年 月 日

議事録署名人